

弥陀ヶ原の火山活動解説資料（平成 28 年 12 月）

気 象 庁 地 震 火 山 部
火山監視・警報センター

立山地獄谷では以前から熱活動が活発な状態が続いています。2012 年 6 月以降の観測で噴気の拡大・活発化や温度の上昇傾向が確認されていますので、今後の火山活動の推移に注意してください。また、この付近では火山ガスに注意してください。

噴火予報（活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・ 噴気など表面現象の状況（図 1）

瀬戸蔵山西監視カメラ（弥陀ヶ原の西約 14km）による観測では、地獄谷からの噴気の高さは概ね 200m 以下で経過しています。

・ 地震や微動の発生状況（図 2）

弥陀ヶ原近傍を震源とする火山性地震の発生回数は少なく、地震活動は低調に経過しています。火山性微動は観測されていません。



図 1 弥陀ヶ原 地獄谷からの噴気の状況
(12 月 25 日、瀬戸蔵山西監視カメラによる)

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ (<http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/volcano.html>) でも閲覧できます。次回の火山活動解説資料（平成 29 年 1 月分）は平成 29 年 2 月 8 日に発表する予定です。

この資料は気象庁のほか、京都大学、名古屋大学及び国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータも利用して作成しています。資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』『数値地図 25000（行政界・海岸線）』を使用しています（承認番号：平 26 情使、第 578 号）。

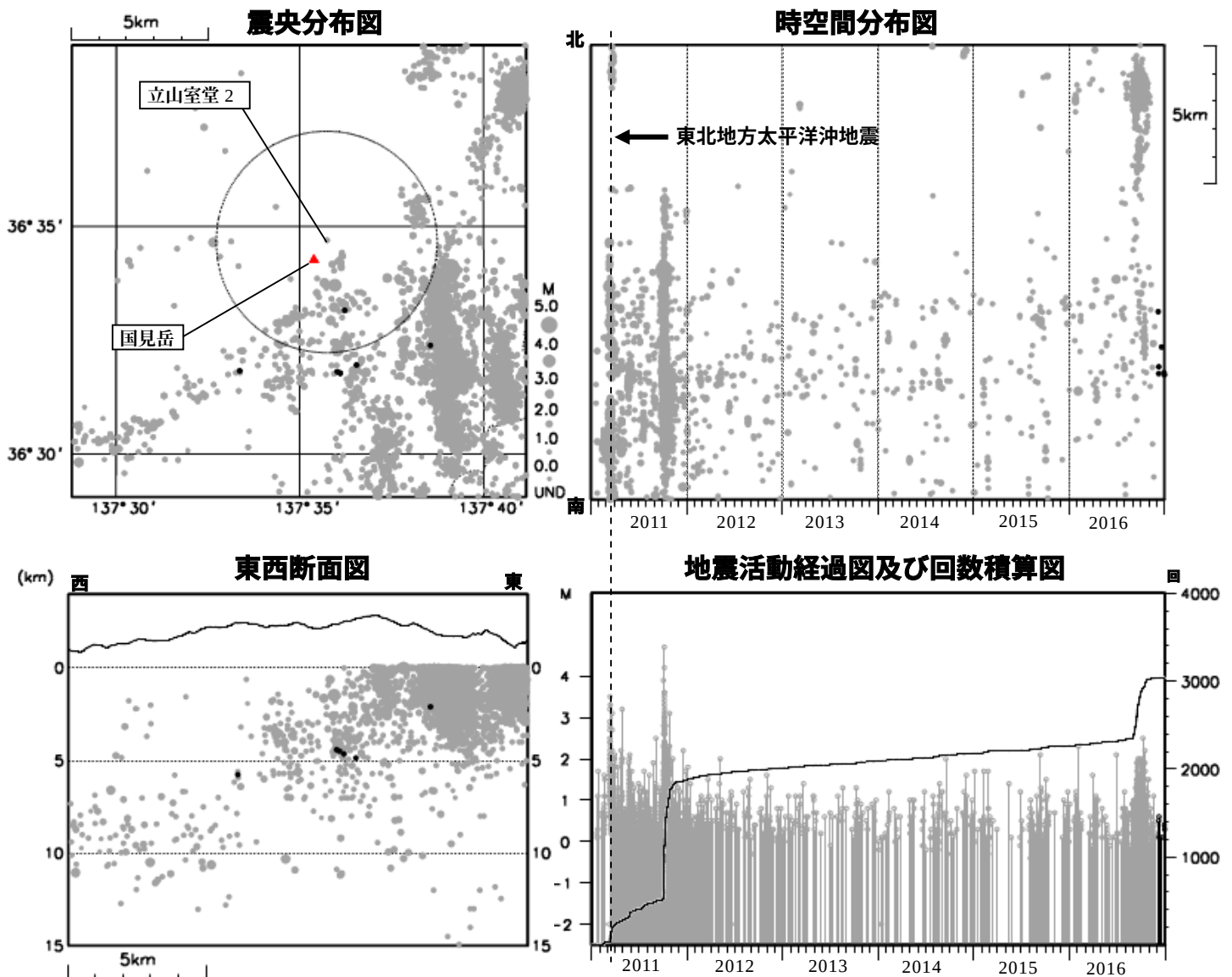
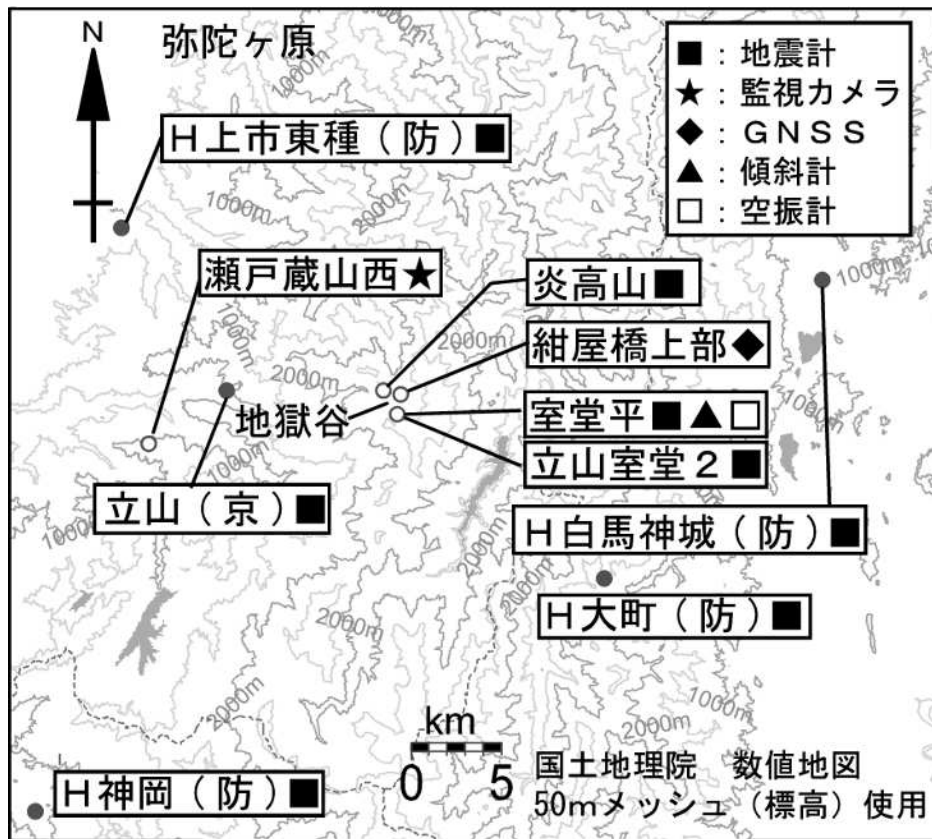


図2 弥陀ヶ原 広域地震観測網による山体・周辺の地震活動（2011 年 1 月 1 日～2016 年 12 月 31 日）

●：2011 年 1 月 1 日～2016 年 11 月 30 日 ●：2016 年 12 月 1 日～12 月 31 日

- ・ 震央分布図中の円は弥陀ヶ原の計数対象地震（立山室堂 2 で S－P 時間 1 秒以内）のおよその範囲を示しています。
- ・ 広域地震観測網により震源決定したもので、深さは全て海面以下として決定しています。
- ・ M（マグニチュード）は地震の規模を表します。
- ・ 図中の震源要素は一部暫定値が含まれており、後日変更することがあります。
- ・ 弥陀ヶ原近傍の地震活動は、低調に経過しています。



小さな白丸（○）は気象庁、小さな黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
 （防）：防災科学技術研究所、（京）：京都大学防災研究所

図3 弥陀ヶ原 観測点配置図

※室堂平、炎高山、紺屋橋上部、瀬戸蔵山南西：12月1日運用開始